

三十三所巡り

圓教寺は、日本の中央 7 県にまたがる 1,000 km を超える巡礼路に沿った 27 番目のお札所である。33 か所の寺院をめぐる西国三十三所は 8 世紀に成立し、国内で最も人気のある巡礼路の 1 つであり続けている。各寺院には、慈悲の観音菩薩像が祀られている。そしてそれぞれのお寺を回することで、死後に転生するための大きな功德を蓄積することができると言われている。摩尼殿はこれらの 33 か所の 1 つである。1239 年に僧侶の妙覚によって彫られた六臂如意輪観音像が納められている。

車やロープウェイなどの近代的文明が発達するまで、巡礼者はこれらの各巡礼路を徒歩で訪れ、途中で亡くなることも珍しくなかった。早い段階から、巡礼を完全踏破することの難しさを考え、進歩的考えのある僧侶たちは、これらの巡礼の旅の縮小版を作り、「写し霊場」と呼ぶ一カ所で簡単に訪れることができるような方法を考えた。まさにそのような場所が圓教寺にある。摩尼殿に通じる石段のふもと近くにある。「三国三十三観音巡礼地」と呼ばれるこの小さなお堂に 33 箇所の観音菩薩のすべての小型像が納められているため、巡礼者は 1 回の訪問で巡礼路の全行程を完了することができるのである。